

明倫館だより

第45号
平成18年4月1日発行
発行人 井上晴雄
財団法人 南豫奨学会
南豫明倫館
〒184-8586
小金井市中町 4-18-26
TEL 042-383-9835(代)

文六の
なごりの宿や
鳥帰る
武内 敦子
春がすみ
島から島の
連絡船
勇 八郎
『獅子唐句会』

平成17年度主要行事報告

平成17年

- 4月 1日 平成17年度新入寮生(12名)入寮
- 2日 寮室壁紙・ドア鍵・ブラインド取替
- 3日 学生親睦会開催
- 9日 学生自治会開催
- 17日 学生新入寮生歓迎会開催
- 24日 第1回常務理事会開催・新入寮生歓迎会
- 29日 上田陽平君(1年生)急性アルコール中毒にて救急搬送
- 5月 3日 学生バーベキュー大会
フットサル部発足
- 15日 支援会入会促進書類約600通発送・
同明倫館だより第43号発送
- 16日 植木剪定実施
- 27日 監査役会開催
- 6月 4日 平成17年度第1回理事会開催
- 6日 自治委員会開催。17年度上期委員長に
友澤孝則君(東京大3年)就任
- 16日 学生懇親会開催
- 17日 学生用トイレ修理
- 7月 5日 第1回消防検査実施
- 8日 平成17年度第2回常務理事会開催
同4年生進路相談実施
- 8月 3日 学生富士登山実施
- 8月 8日 夏休み開始
- 20日 夏休み終了
- 26日 4寮懇親会開催
- 10月 3日 学生自治委員会総会開催
- 6日 松山評議員会・OB会開催
- 7日 宇和島評議員会・OB会開催
18年度南豫明倫館入寮説明会開催
奨学生候補者面接、高校長懇親会開催
- 25日 藤川淳平君(専修大1年)急性腸炎で
救急車
- 11月23日 第3回常務理事会開催、17年度寮祭
阿部伸泰君(国士館大1年)頭部打撲で
救急車
- 12月 2日 第4回常務理事会開催
- 26日 冬休み開始
- 27日 定期風呂点検
- 28日 厨房殺菌庫修理
- 平成18年
- 1月 7日 冬休み終了
- 15日 自治委員会総会開催、17年度下期委員
長に谷雄介君(早稲田大2年)就任
- 19日 定期消防検査
- 21日 第2回定例理事会開催
- 2月10日 第1次入寮願書締切り
- 19日 第5回常務理事会開催、歓送会開催
- 3月10日 第6回常務理事会開催
- 17日 入寮面接試験実施(於宇和島市)
- 31日 平成18年度新入寮生入寮



次代の期待を担い 九人が卒業

卒業生氏名(大学名・出身地)進路
一、将来の抱負 二、後輩への助言

菊池 庄太(慶応義塾大学・理工学部、八幡浜市)
東京大学大学院

一 自分への甘えをなくして、常に向上心を
持つ。
二 今できること、大学生だからできること
を一生懸命取り組んで、充実した大学生
活を送って下さい。

山本 弘幸(東京農工大学・農学部、宇和島市)
東京農工大学大学院

一 あと半年間、自分のやりたい事をよく考
え、悔いの無いような進路決定をしたい。
二 南豫明倫館での四年間はあつという間で、
とても貴重な時間です。その事をよく考
えて残りの寮生活を過ごして下さい。

竹田 重仁(東京農工大学・農学部、宇和島市)
東京農工大学大学院

一 あと二年間、大学院で昆虫の勉強をし
ます。そこで身に付けた知識と技術を十分
に生かせる職に就きたいと考えておりま
す。
二 自分をしっかり持って、自信をしっかりと
つけて下さい(おごりじゃなくてね)。あ
とは、仲間や家族を死ぬほど大切にしま
しょう。

木下 龍二(東京理科大学・工学部、宇和島市)
東京理科大学大学院

一 法の網をかくくぐるような仕事だけはや
らないように気をつけたいです。
二 感謝の気持ちだけは忘れないでください。

鶴岡 賢三(橋大学・法学部、宇和島市)
未定

一 公務員志望なので今年こそ就職が決まる
よう頑張りたいと思います。
二 大学生活四年間は過ぎてみれば早いもの
です。悔いを残さないよう大切に過ごして
下さい。

堀川 貴史(専修大学・商学部、宇和島市)
未定

一 今学んでいる土地家屋調査士の資格を取
得し、将来的に実家の工務店を継ぎたいと
思っています。
二 大学生活は、時間を自由に使えることが多
いと思うので様々なことに取り組んで、有
意義な生活をおくってください。

井上 智幸(学習院文学部、鬼北町)
警視庁

一 犯罪被害者が受けることになる苦悩や悲
痛な気持ちを生じさせる出来事をなくす
べく尽力し、住みやすい国にしていきたい。
二 ご迷惑をおかけしたこともあったと思
いますが、今までお世話になりました。健康
には留意して下さい。

竹内 正剛(日本獣医畜産大学、伊予市)
未定

一 動物の側にも人間の側にも立って物事を
考えられる立派な獣医師になりたい。

都築 絢一(慶応大学・法学部、八幡浜市)
未定

一 未定
二 特にありません。

行動する自治会を目指す

自治委員長 谷 雄介
早稲田大(三年)

寮生同士の関係は、「一枚岩」でなければなら
ないと考えます。大都市東京で同郷の者同士が
身を寄せ合って共同生活を行うのですから、つ
まらぬ諍いや寮生間の不和はあつてはなりま
せん。

しかしながら、寮生同士の関係が馴れ合いに
なってしまう状況は避けなければならぬと
考えます。互いの立場を尊重し親交を深めなが
らも、また、互いに刺激し合える関係であらね
ばなりません。

今期の自治会は「行動する自治会」にしたい
と考えます。寮生活におけるさまざまな問題点
について、自分たちから積極的にアプローチし、
またその解決のために速やかに行動を起こす
ということを心がけていきたいと思つています。現
在は、整備委員会を中心に寮環境の整備を重点的
に行つています。今後は新たな寮行事の企画や
外部への広報活動等を通じて、寮生活のさらなる
充実のために力を尽くす所存です。

平成17年度 下期自治委員会

- ▷委員長 谷 雄介
- ▷副委員長(東) 稲田 佑也
- ▷副委員長(西) 久保田 圭
- ▷風 紀 二宮 泰明
- ▷会 計 友岡 清志
- ▷企 画 藤川 淳平
- ▷整 備 古谷 和崇
赤松 洸多
二宮 佳久
- ▷広 報 谷脇 慎太郎
- ▷情 報 久保田 圭

財団法人南豫奨学会 「奨学金支援会」だより

平成一七年度「南豫奨学会奨学金支援会」
結果報告、並びに一八年度分について募集を継続中

平成一七年度「奨学金支援会」の募金結果が
まとまりましたので、報告致します。

平成一七年度の募金総額は左記集計表の通り
総額三百四十三万円に達しました(表1参照)
これは平成一六年度の三百万円を上回るもので、
関係各位の皆様への厚いご支援の賜物と感謝致し
ております。この資金は、早速学校推薦による平
成一八年度の新入寮生二名に対し貸与を開始し
ましたことを、ご報告申し上げます。

引き続き皆様には平成一八年度三月二十二日現
在で百四十九万円のお振込みをいただいてお
ります(表2参照)本年度も総額三百万円を目
標と致します。皆様のおかげで尽力を伏して
お願い申し上げます。

財団法人南豫奨学会奨学金支援会

理事長 会長 伊達 宗禮

平成一八年度四月二十五日

お振込みは左記の郵便振込番号か銀行口座で
受け付けております。

郵便振込番号 〇一五〇一〇一〇一六五三

銀行口座 伊予銀行新宿支店普通預金口座

名義 『南豫奨学会奨学金支援会』

名義 『財団法人南豫奨学会奨学金委員会』
委員長 松本 三郎

(表1) 平成一七年度支援会申込者数並びに募金結果
(平成一八年度3月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	17	500,000
評議員	45	900,000
OB	51	660,000
現父兄	27	300,000
一般	25	810,000
法人	4	200,000
市町村	2	60,000
合計	172	3,430,000

(表2) 平成一八年度支援会申込者数並びに入金状況
(平成一八年度3月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	11	310,000
評議員	23	450,000
OB	25	370,000
現父兄	9	110,000
一般	15	150,000
法人	2	100,000
市町村	0	0
合計	85	1,490,000

※一般には元父兄含まず。

四ヶ月間の留学を振り返って

宮住 達朗

(法政大学・経済学部・四年)

一年前の四月五日、私は新学期を異国で迎えていた。イギリスのシェフィールドという都市で新たな生活をスタートした。

大学入學時に私は「これまでのような普通の生活では時間の無駄だ。今しかできないことをしよう」と思っていた。そこで私は通っている大学で募集されていた四ヶ月間海外で英語と経済学を学ぶ短期留学プログラム「SAStudy Abroad」に指図されたことだけをやり、何かに挑戦しようという意識に全く欠けていたので「清水から飛び降りる」思いで志願書を出した。留学先はアメリカ、オーストラリア、イギリスの三ヶ国の中から選ぶことができた。私はイギリスを希望した。選んだ理由は歴史が深く、様々な文化に触れることができるからだ。試験もパスし、二年間の準備期間を経て私はイギリスへ旅立った。四月、ロンドンのヒースロー空港に降り立つてから、二分一秒が驚きの連続だった。何もかもが新鮮で、赤レンガの街並み、大きくそびえ立つ教会、巨大スーパー、羊でいっぱいの牧場、看板広告、道路標識、生活している人々など全てに興味が沸いた。私達「イギリス組」(各国に十五〜二十名ずつ派遣される)のメンバーは留学のために買ったカメラを構えていた。

シェフィールドは古くからナイフなど刃物の製造で発展したイギリス第五の都市。近年では新たな売り物として留学生への教育に力を入れており、市内は様々な教育機関や関連施設で溢れ返っている。中でもシェフィールドハラムと私が通ったシェフィールド大学は国際的にも有名な大学だ。私達はまず二ヶ月間、語学習得のためにELTC(English Language Teaching Centre)という語学学校に通った。日本では教わらない表現からより高度な大学レベルの英語まで、私達が現地で生活し、学ぶために不可欠な英語を学んだ。

クラスは学期の最初に行われるテスト USEPT (University of Sheffield English Proficiency Test)の結果でレベル別に分けられる。私がお世辞にも良いとは言えない点をとったのだが、何故か二番目にレベルの高いクラスに入ってしまった。私のクラスメイトは国籍に偏りがあったものの、サウジアラビア、リビア、台湾、タイなど普段あまり接することのない国々の人たちで構成されていた。石油王の親族、化学教師、彼氏を追いかけた大学生、若くして退職したおじさんなど、そのバックグラウンドも様々。しかし皆に共通して言えることは素朴で親しみやすく、おかしな人達だということ。そして何よりも賢くて積極的!!先生がどんなに難しい質問をしても全員が我先にと発言し、教室の中は喧騒に包まれる。こういった中で自己主張をしない(良く言えば譲り合いの精神をもった)私達日本人学生はすっかり萎縮してしまっていた。特に私は大学入試の英語は大得意だった。英会話となると彼らに遠く及ばなかった。当然授業は全て英語で進められ、その上レベルの高い内容だったので私は全くついていけなかった。単語は聞き取れるのにめまぐるしいスピードのため授業内容が理解できない。こんな日々が続く、私は劣等感を味わい続けた。その悔しさが私を毎晩机へと向かわせた。

五月には異国の地での生活にも慣れ、徐々にではあるが自分の英語が上達していることを実感していた。そして前半二ヶ月の英語学習を終える節目として、もう一度USEPTを受ける機会があった。自分が毎日努力した結果を出したいと意気込んでテストに望んだ。だが手心は汗ばみ、緊張が伝わった。結果を聞きに担任のCilia(厳しくて皆あまり好きではなかった)の所に「Cilia「テストはどうだった?」の問いに「まあ無難な点だと思えます」と元気に答えた。すると突然、そんなことない!ととてもよく頑張ったね!と私を褒め始めた。彼女からあまり褒められたことが無かったので思わずびびりしてしまったが私の点数はクラスの平均以上に達していたのだ。

平均的な生徒は二ヶ月に英語のレベルが二段階伸びるそうだが、必死に勉強を続けた成果が出たのだらう、私の場合は二ヶ月で二段階も伸びたのだ。ようやくクラスメイトと肩を並べ、日々の努力が実を結んだことに大きな喜びを感じた。よく「留学すればその国の言葉で生活するようになるから話せるようになる」と聞くが、それはどうだろうか。確かに異言語を話すことや違う文化の中で生活することに抵抗はなくなるが、やはり本人が努力しないと何も身につかないと思う。

そんな私を毎日支えてくれた人達がいる。私の留学を語る上で決して外せない、四ヶ月間を共にしたホストファミリーだ。お父さんのキースとお母さんのキャロルは六十歳過ぎの恰幅の良い夫婦。これまで四十人以上の留学生を受け入れた経験がある大ベテランだ。二人はいつもおどけてくれるけれど、とても親切で頼れる存在。キースは物知りでどんな質問にも分かり易く答えてくれる。キャロルの料理は絶品で、「イギリスの料理は不味い」というイメージを一気に覆された。味も良いが、その量も凄い。テーブルには毎晩のように山の様な料理が盛りられ、それをなんとか食べ終えたら甘いデザートが待ち受けている。私はいつも食べ残しをしながらため「Greedy(食いしん坊)」のレッテルを貼られ彼らより多くの料理を用意された。そのため帰国時には体重が10kgも増えてしまった。

家には他にも留学生の女の子がたくさんいて男の子は減りに受け入れず、私が二人目だった。韓国人のジーンやスペイン人のマータとは特に仲が良かった。これが私のイギリスの家族。とてもおしゃべりでいつも笑いが絶えない家庭だった。イギリスの両親は私に「John」というイギリス名をくれた。何故なら彼らが私の名前「Tatsuro」を上手く発音できなかったから。この名前を日本人に話すといつも笑われるが、この名前のおかげで欧米の人に自己紹介をするときに打ち解けるようになった。私が(Informalな)署名をする時は「Tatsuro [John] Miyazumi」書いている。

イギリスの街には100m歩くことにパブという飲み屋を見かける。キースと街を歩いていると「これは良いパブだ。あれも良いパブだ。これもパブ。そこにもパブ」と言ってくる。「パブはイギリスの文化だね」と言う。「その通り!」と嬉しそうに言い返してくる。仕事が終わると毎晩行きつけのパブで「ポイント(五〇〇mm)ジョッキ」のビールを片手に友人達と語り合うのが平均的イギリス人の過ごし方。家にいると友達とパブに行かないの?とよく言われたものだ。

別れはいつも辛いものだ。私は一緒に暮らした何人もの生徒を見送ってきた。仲の良いママタが家を去る時も家族皆が別れを惜しんだ。彼女は頑張り笑おうとしていたがやはり泣いてしまった。「いつでもここは皆の家だし、父さんも母さんもここにいます。何も変わりはないからいつでも帰って来れるよ!」と慰めた。それは私自身に向けた言葉でもあった。私の帰国についての話題が上る



▲シェフィールドの街並み

といつも「ジョンがいなくなる」とご飯の準備をしないで済むから助かるわ!」とキャロルはおどけ、僕もむきになって「そんなこと言って絶対泣くよ!」と言いつつ返していた。別れの日、私の部屋には新たに留学生がやってくるようになっていた。そのためキャロルは部屋を綺麗に片付けて受け入れの準備をしていた。通り片付け終えたキャロルは部屋をポーッと眺めていた。すると「このドアを開けても部屋にはJohnがいなくて泣き出し、別れを惜しんでくれた。キースもいつも別れは私達を悲しくさせる。でもここはお前の家、お前は俺の息子だよ。お前はきつと帰ってくるさ!」と言ってくれた。家族みんなで抱き合っ泣いた。別れの時、イギリスの両親はカードをくれた。そこには彼らの愛がたっぷり詰まっていた。

こうして私の夢のような四ヶ月は幕を閉じた。シェフィールドでの日々は生涯忘れることが無いだろう。様々なことを体験し、夢のような日々を過ごすことができた。私自身も大きく成長ができたと思う。語学力はもちろん、未知の物事にも恐れず飛び込んでいくようになったし、逆境にもくじけなくなりました。留学をするに迫りお世話になった大学関係者の方々、先生、友人には本当にお世話になった。そして日本とイギリスの両親達にはどんなに感謝してもしきれない。この貴重な経験から得たものを元にして成長していく自分の姿を見ることが最大の恩返し、親孝行だらう。

あれから四ヶ月後のクリスマス。私はキースの言った通り、イギリスの我が家に戻ってきた。ヨーロッパ旅行の途中、シェフィールドに三日間立ち寄ったのだ。まさか用意されているとは思わなかったプレゼント、昔と変わらない私の小さな部屋とベッド、そして彼らの変な笑顔がとても嬉しかった。キースは得意げに「こう言った。今お金を貯めているんだよ。Johnの結婚式に出る為には日本に行かなくやいないなだろ?」

…イギリスの両親への親孝行はまだ先になりそうだが、

編集後記

奨学金支援会の十七年度募金結果は上記の通り皆様のご支援により三百五十万円近くに達しました。厚く御礼申し上げます。

この資金を活用して、早速十八年度新入寮の二名に貸与を開始することになりました。引き続き十八年度分も募金を継続中です。

今年度の入寮生は十名にとどまり、いよいよ少子化・大学全入時代で、寮運営にも変化に時代が来ている兆しでしょうか。一方就職環境はめだつて好転しています。